

中部森林管理局「国有林の地域別の森林計画等検討会」概要

開催日時 及び場所	令和8年3月11日（水） 13:30～15:30 中部森林管理局大会議室
委 員	<p>安藤 幸志 （愛知県森林組合連合会 常務理事） 伊藤 栄一 （森のなりわい研究所 代表理事・所長） 太田 道人 （富山市科学博物館学芸課植物担当 学芸員） 大洞 智宏 （岐阜県立森林文化アカデミー准教授） 加々美 貴代 （やまぼうし自然学校 代表理事） 玉木 一郎 （岐阜大学応用生物科学部 准教授） 欠席 三木 敦朗 （信州大学農学部 助教） 美谷添 理恵子 （岐阜県素材生産流通協同組合 副理事長） 村松 敏伸 （長野県森林組合連合会 代表理事専務）</p> <p>検討委員9名（うち出席8名）</p>
議事内容	<p>○ 令和7年度に策定する地域管理経営計画書（案）及び国有林野施業実施計画書（案）について （森林計画区：中部山岳、長良川、尾張西三河）</p> <p>○ 令和7年度に変更する地域管理経営計画書（案）及び国有林野施業実施計画書（案）について （森林計画区：神通川、千曲川下流、千曲川上流、伊那谷、木曾谷）</p> <p>○ 意見交換</p> <p>○ その他</p>
委員からの 主な意見	<p>○ 令和7年度に策定する計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林道の計画量が3倍程度に増加している計画区があるが、予算面を含め実現可能なのか。 ・ 災害で林道が使えず伐採や間伐を見送ると将来の災害リスクが増すのではないか。 ・ 複層林への誘導に際して広葉樹の植栽を想定しているのか。 ・ 現在行われている新しい森林・林業基本計画の議論の中で「育成複層林」という区分がなくなるようだが、現行計画との整合性は大丈夫か。 ・ 林地保全に配慮するために機能類型の変更（水源涵養タイプから山地災害防止タイプ）が行われ林業適地が少なくなると、一部の林業適地に伐採が集中し過剰伐採とならないか。 <p>○ その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伐採直後は景観が損なわれがちであり、長期的な森林の将来像は利用者に伝わりづらい。利用者に配慮した森林空間を生み出すような短期から中期的な

ビジョンが必要ではないか。また、なぜそのような施業が必要なのかを国民に示すことも必要だと思う。

- ・ 山林火災への国有林の役割・初期対応体制はどうなっているか。
- ・ 育成複層林施業について、国有林での失敗も含めた事例を広く公開し、取り組みが進みやすくなるよう情報共有をしてもらいたい。
- ・ 国有林であることを表示する看板はあるが、それがどういう森林であるのかまでは現地で分からない。国有林の取組自体や意気込みをもっとわかりやすく表示・広報してはどうか。
- ・ 看板にQRコード付し、現地情報をスマホで見られるようにするのはどうか。情報の更新はQRコードの中身だけの更新で済む。
- ・ 架線集材の技術者が高齢化等で減っている。研修だけでは技術継承が進まない。もっと実践的な場が必要ではないか。
- ・ 国有林では、施業の効率よりも架線技術者育成を主眼に置いた事業の設定、事業発注をしてはどうか。
- ・ 国有林内で架線集材を原則とする保搬特（森林の土地の保全のため林産物の搬出方法を特定する必要のある森林）の面積はどれくらいあるのか。